

## 池の上に造る弾薬庫



2020年2月7日 FB ページ I Love いしがきに投稿



上の図は、防衛省の資料に描かれた平得大俣のミサイル基地予定地（赤枠内）の施設配置図と、国土地理院の地図を重ね合わせたものです。地図上の破線は、旧ジュマールゴルフガーデンの境界線で、いまその内側で土地造成工事が行われています。防衛省は、この範囲内に主な施設をすべて詰め込むつもりです。

旧ジュマールの南東境界に沿って、ミサイル弾体を納める4つの大型弾薬庫が並びます。また、一番右側の弾薬庫の右隣りに描かれた小さな建物は、発煙筒などを納める火薬庫です。地図と重ねると、弾薬庫の2つと小火薬庫は、それぞれ2つの池の上に造られることがわかります。

火薬類取締法施行規則第24条は、地上式一級火薬庫について、「火薬庫の位置は、湿地を避けて選定すること」と定めています。ですから、防衛省は、弾薬庫を造る前に、これらの池を「始末」しなければなりません。おそらくそのために、一番右の元「釣り堀池」は、土砂と凝固剤で埋めようとした。しかし、右図（上3枚は沖縄ドローンプロジェクトさんによる空撮）でわかるように、昨年11月にいったん「ほぼ消えた」池が、12月には復活し、今年に入ると、石で護岸を施した立派な池に戻っています。湧き水は、土で埋めても止まらないのです。左側の池も、同様の湧き水の池です。

この湧き水を完全に止めるには、福島第一原発で計画された「凍土壁」のような、大掛かりな止水壁が必要です。止水壁を設計するには、事前に地下水流路の詳細な調査が必須です。また、市民の飲料用地下水の流路を大きく変更するので、環境影響調査も不可欠です。

防衛省は、環境アセスをサボったつけを、ここで払わなければならないのかもしれない。こんな状態で「市有地提供」なんて、論外です。



2019年10月



2019年11月



2019年12月



2020年2月